

基礎看護学Ⅴ

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 三浦 まゆみ 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 6時間 演習 39時間
期 間	前期		
単 位 数	2単位		

・学習方針（講義概要等）

健康上の問題を持つ対象の安全・安楽および自立を図り、看護援助としての診療に伴う援助技術を学ぶ。具体的には、吸引・吸入・酸素吸入という呼吸を整えるための援助、無菌操作、導尿、包帯法、薬物療法として注射の実施、血液検査などの検査等について演習を通して技術の習得を目指す。また、エンゼルケアという考え方にも触れる。

この授業は2年次前期に開講し、その後基礎看護学実習Ⅱが実施される。実習も見据え、事例を用いて看護過程に基づく思考過程にそって、看護技術を実施し、看護をすることの意義について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

解剖生理学や生化学等の看護専門基礎科目と既習の基礎看護技術における知識を統合させながら、診療に伴う技術としての、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術を習得することができる。看護技術の原理・原則と診療の目的を考えながら、相手に不快な思いや苦痛を与えないような方法を考えることができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4

・到達目標（SBO）

1. 感染予防ができる。
2. 呼吸・循環を整える技術を修得することができる。
3. 創傷管理技術を修得することができる。
4. 与薬の技術を修得することができる。
5. 検査に伴う援助技術を修得することができる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-B 講義室、 (矢) マルチメディア教育研究棟 1 階研修室 1・2
 (矢) マルチ 2-A 実習室、 (矢) マルチ 2-B 実習室、 (矢) マルチ 3-B 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/24	金	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 講師	与薬の援助技術① ・ 薬物療法の意義と目的を説明できる ・ 各種与薬の方法と留意点を説明できる
6/5	金	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 講師	創傷管理技術 ・ 創傷の種類および治療過程を説明できる ・ 褥瘡発生のしくみや好発部位、褥瘡の予防方法を説明できる
6/12	金	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 講師	エンゼルケア（死後のケア） ・ エンゼルケアの目的、方法と留意点を述べることができる
6/19	金	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 講師	呼吸・循環を整える援助技術① ・ 気道分泌物の排出の援助方法と留意点を説明できる

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/3	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	感染予防の技術① ・ 感染源への対策方法について説明できる ・ 滅菌物の取り扱い方法と留意点を説明できる
4/10	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	感染予防の技術② （滅菌物の取り扱い） ・ 滅菌物の取り扱いができる
4/10	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	感染予防の技術③ （滅菌手袋）（ガウンの着脱） ・ 滅菌手袋・ガウンの着脱ができる

4/14	火	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	排尿障害のある患者の援助① ・ 導尿の目的、方法と留意点を説明できる
4/17	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	排尿障害のある患者の援助② (導尿) ・ 一時的導尿を根拠に基づいて実施できる
4/17	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	排尿障害のある患者の援助③ (導尿) ・ 持続的導尿の方法と留意点を説明できる
5/1	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	与薬の援助技術② ・ 各種注射の方法と留意点を説明できる
5/1	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	与薬の援助技術③ ・ 各種点滴静脈内注射の方法と留意点を説明できる
5/8	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	与薬の援助技術④ (皮下注射) ・ 皮下注射を根拠に基づいて実施できる

5/8	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	与薬の援助技術⑤ (筋肉内注射) ・ 筋肉内注射を根拠に基づいて実施できる
5/15	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	与薬の援助技術⑥ (点滴静脈内注射) ・ 点滴静脈内注射を根拠に基づいて実施できる
5/15	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	与薬の援助技術⑦ (点滴静脈内注射) ・ 点滴の滴下数や終了時間の計算ができる
5/22	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	検査に伴う援助技術① ・ 各種検査の目的と看護師の役割について述べることができる
5/22	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	検査に伴う援助技術② ・ 血液検査の目的と種類を述べるができる ・ 採血の方法と留意点について説明できる
5/29	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	検査に伴う援助技術③ (採血) ・ 採血を根拠に基づいて実施できる

5/29	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	検査に伴う援助技術④ (採血) ・採血を根拠に基づいて実施できる
6/5	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	輸血療法 ・輸血療法の目的と種類、方法と留意点について説明できる
6/12	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	包帯法 (包帯の巻き方) (三角巾) ・包帯法の目的、種類と特徴を説明できる ・包帯を巻くことができる ・三角巾を使用した処置ができる
6/19	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	呼吸・循環を整える援助技術② ・酸素吸入療法の意義、援助の方法と留意点を説明できる
6/26	金	2	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	呼吸・循環を整える援助技術③ (口腔内・鼻腔内吸引) ・口腔や鼻腔からの一時的吸引を根拠に基づいて実施できる
6/26	金	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	呼吸・循環を整える援助技術④ (酸素吸入療法) ・酸素吸入療法を根拠に基づいて実施できる
6/26	金	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 野里 同 助教 小坂 未来 助教	呼吸・循環を整える援助技術⑤ (酸素ポンベの操作) ・酸素ポンベの操作を実施できる ・酸素ポンベの残量と使用可能時間の計算ができる

7/2	木	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	技術到達度の確認 (実際に想定した看護技術の実践①) ・これまで学んできた看護技術の中から、患者の状態に合わせた援助方法、留意点について説明できる *演習の中で、学生同士のディスカッションの機会を設ける
7/2	木	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	技術到達度の確認 (実際に想定した看護技術の実践②) ・これまで学んできた看護技術の中から、患者の状態に合わせた援助方法、留意点について説明できる *演習の中で、学生同士のディスカッションの機会を設ける
7/9	木	3	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	技術到達度の確認 (実際に想定した看護技術の実践③) ・これまで学んできた看護技術の中から、患者の状態に合わせた援助方法を選択し、実施することができる
7/9	木	4	共通基盤看護学講座	三浦 まゆみ 教授 柏木 ゆきえ 講師 小松 恵 特任講師 佐藤 奈美枝 助教 小林 由美子 助教 野里 同 助教 小坂 未来 助教	技術到達度の確認 (実際に想定した看護技術の実践④) ・これまで学んできた看護技術の中から、患者の状態に合わせた援助方法を選択し、実施することができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	基礎看護技術Ⅰ 第5版	深井喜代子編集	メヂカルフレンド社	2017
教	基礎看護技術Ⅱ 第4版	深井喜代子編集	メヂカルフレンド社	2017
参	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版	任和子 井川順子 秋山智弥 編集	医学書院	2017

・成績評価方法

筆記試験 70 点、演習への取り組み 30 点の合計 100 点とする。

* 演習への取り組みは、演習の参加状況・態度と指定された提出資料の内容・提出期限の厳守、学修課題の実施状況（課題レポート、視聴覚教材の視聴）も含む

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で授業に臨むこと。本科目での指定の教科書だけでなく、解剖生理学など広く授業内容に関連した教科書の章を事前に読んで参加すること。演習開始前には、関連する教科書の章および配布資料を読む、“e ナーストレーナーの動画”または、“Webclass にあげた動画”の視聴覚教材を視聴するなど、イメージトレーニングを行って、学修のポイントを理解した上で参加すること。また、各回で予習復習を目的とした学修課題が提示されるため、その課題に取り組むこと。各授業について、最低 30 分以上の事前学修を要する。看護技術の修得は、繰り返し実施することが必要なため、授業終了後も主体的に技術練習を行い、自己学修を重ねて知識と実技の定着に努めること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

レポート等の課題は、適宜コメントし返却する。

技術到達度の評価は評価表に基づき評価し、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野 I 基礎看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
演習	CPS 実習ユニットⅡ,接続用吸引器・酸素流量計	2	呼吸・循環を整える援助技術
演習	吸引シミュレータ“Qちゃん”	2	吸引
演習	万能型看護実習モデル“八重”	12	導尿・注射
演習	採血・静注シミュレータ“シンジョーⅡ”	10	採血
演習	鑷子	24	滅菌物の取り扱い